

公民館月報

K O M I N K A N G E P P O



4.5 特集 「社会全体で子どもをはぐくむ運動」の活動について

- 2 **トピックス** 第1回理事会・評議員会開催
- 3 **視点** 歴史、人、思いから…
- 3 **ひろば** 見直そう古里の魅力
- 6 **実践記録シリーズ** 妙高青少年リーダーズ研修会
- 7 **サークル交流** すくすくサークル (加茂市) / 与板町伝統文化こども教室 (与板町)
- 7 **素顔拝見** 北上みどりさん (新潟市) / 佐藤 伸一さん (聖籠町)



「六角巻風が乱舞する風（イカ）合戦」 三条市

表紙解説 六角巻風が乱舞する風（イカ）合戦の様子



第一回理事会・ 評議員会開催

●平成十七年度基本方針・
重点事業決定
●自主財源確立のための
調査検討委員会活動

異動に伴う新会長には三保恵美子氏 (新潟市中央公民館長)

新潟県公連初の女性会長実現

去る五月二十七日(金)、新装オープンした新潟市生涯学習センターを会場に、第一回理事会・評議員会が開催された。

来賓には、県生涯学習推進課長様(代理)をはじめ三人の方をお迎えして、定刻に開催。

議長には、下公連の五泉市公民館長熊倉文男氏を選任、議事に入った。

◇審議内容

一、平成十六年度会務報告及び歳入歳出決算について

二、平成十七年度基本方針・重点目標、事業計画案について

・とくに、県内の市町村合併も最終段階を迎える中、財源難の問題、「指

定管理者制度」の導入問題等や、また県公連としては、県町村職員退職手当組合の解散に伴う脱退精算負担金の問題等、直近の重要課題として捉えていくことが確認された。

三、平成十七年度予算案について

・市町村合併等により県公連財源の収入減が見込まれるため、自主財源確立のための調査検討委員会が中心となり、対応していくこと、支出経費の見直しを大幅に図ったこと

退任のことば



前副会長
渡邊 徳廣

①定期異動
新発田市健康福祉部総合健康福祉センター所長

②2年間、副会長・市町村合併問題調査検討委員会委員長として活動できたことは、社会教育や人との出会い、触れ合いが日々新鮮であり、大変意義のあるものでありました。

③公民館が培ってきた実績を大切にし、熱気・活気・元気のある公民館でありたい。

①異動内容・異動先等
②在任中、印象に残った事業、事柄等
③退任に当たって贈ることは(市町村合併問題への提言等)

と等の説明がなされた。

四、第五十六回新潟県公民館大会(白根大会)について

・開催要項に従い、渡邊実行委員長から、参加要請がなされた。

今回も、大会決議を行うこととし、文案を大会事務局で準備し、大会当日提案することとなった。

五、第四十六回関東甲信越静公民館研究大会(神奈川大会)への参加要請について

・緊急アピール文案の検討も含めて、事務局から説明がなされた。

六、その他

・会長から、県公連の役職員の慶弔に関する規程の廃止について提案され、承認された。

◇報告・連絡事項

(1)全公連優良職員表彰並びに永年勤続職員表彰については、第四十六回開プロ大会第二日目全体会で行われること。

(2)新潟県公民館月報の原稿執筆割当てについて

◇情報交換

・今回は、各郡市公連持寄り資料がなく、説明は割愛された。

視点

歴史、人、 思いから…



(有)アイセキュリティ 代表取締役 伊藤 敦子

ある日、「まちづくり講座」という言葉に目がとまりました。なんとなくひかれるものを感じて、講座に参加。そこで、石山公民館の方々に会いました。

公民館の方々は、地域の方自身が地域について考えたり、活動したりする、その枠組みづくりをしたいと考えられているようでした。

その考えに共感し、講座が終わった後も、公民館の方やまちづくり講座で知り合った方と、しゃべり場、ひまわり学校などの活動をしてきました。

社会に出て5年くらい、仕事に精一杯で、地域で活動なんて、と考えてしまいましたが、そんなに難しく考えなくてもいいんだよ、と活動メンバーが教えてくれました(自分のできることを、できる時間で、そして楽しんで)。

地域の歴史、人、思いを知り、地域がこうなったらいいなあと思うことを、さまざまなたつながら実現していく、それは私にとって、地域という身近なところでのとても新しくうれしい発見になりました!

H O T N E W S 掲 示 板

平成17年度 (平成17年5月27日現在) 新潟県公民館連合会役員名簿

都市名	役職名	氏 名	所属公民館	
下越地区	会長	三 保 恵美子	新潟中央公民館	
	副会長	土 田 真 照	新発田市中央公民館	
	理事	竹 内 友 二	村上市中央公民館	
	監 事	山 田 政 雄	燕市中央公民館 (西蒲原郡も兼ねる)	
	五 泉	理 事	熊 倉 文 男	五泉市公民館 (中蒲原郡も兼ねる)
			見 原 健 司	阿賀野市世神公民館 (北蒲原郡も兼ねる)
	佐 渡	理 事	伊 藤 博 啓	佐渡市公民館
			井 上 謙 雄	阿賀町公民館
	中越地区	副会長	吉 岡 潤 一	長岡市中央公民館
		監 事	宗 永 郁 一	三条市中央公民館
柏 崎		理 事	永 廣 一 夫	柏崎市柏崎公民館
			藤 原 俊 一	小千谷市公民館
加 茂		理 事	上 平 芳 夫	加茂市公民館
			原 伸 一 典	十日町中央市公民館
魚 沼		理 事	佐 藤 芳 一 隆	見附市中央公民館
			井 口 光 雄	魚沼市中央公民館
南 魚 沼		理 事	大 澤 智 子	南魚沼市公民館
			星 元 夫	田上町公民館
湯 沢	理 事	上 村 憲 夫	湯沢町公民館	
		原 卷 忠 博	与板町公民館	
上 越	理 事	星 野 正 博	川口町公民館	
		山 岸 洋 行	津南町公民館	
上 越 地 区	副会長	山 野 正 洋	上越市立公民館	
		山 岸 洋 行	糸魚川市中央公民館	
上 越 地 区	理 事	山 岸 洋 行	妙高市公民館	
		山 岸 洋 行	妙高市公民館	

印. 新任 顧問. 今井 昭友 (元会長)

ひろば

見直そう古里の魅力

刈羽村社会教育委員 佐藤 正樹

春光うららかな一日、地域の奉仕活動に参加した。その作業は、戦国時代の勇将上杉謙信の四家老の一人、音藤下野守の居城であった城山への八百米余りの遊歩道の清掃であった。春の柔らかな陽光をいっぱい受け、標高一五五米の本丸跡を自さして作業は始まった。登るにつれ、山桜や山椿が妍を競うように真盛り、まさに「春山笑うが如し」の風景、少々荒れてはいるが、里山の原風景そのものであった。



本丸跡も近くになった頃、一同異口同音に「きれいだ!」「すばらしい!」の歓声が上がった。それは大樺の原生林の下に一面に広がる可憐な薄紫色に咲く「カタクリ」の群生であった。毎年登る所ではあるが、本年は雪解けが遅く偶然にも満開の時期と一致したのである。こんな身近な所で素晴らしい自然を再発見した感動は大きかった。

自然の景観は一朝一夕ではできない。地域にはそれぞれ美しい自然が、そして史跡や文化、伝統が多くあると思う。これらの魅力をもう一度見直し、心を癒す場、自然の保全、郷土愛を育むためにも学校教育、社会教育の活動の場を通じ、次世代に確かに引き継ぎたいものである。

子どもを の活動について



地域子ども教室での様子

- 家庭教育支援総合推進事業
平成16年度30団体315講座→
平成17年度20団体386講座(別表1)
- 地域子ども教室推進事業
平成16年度9市町村15教室→
平成17年度14市町村25教室(別表2)

(3) 県教育委員会の取り組み

① 家庭教育支援に関する人材の育成

市町村家庭教育担当職員企画力養成研修として「家庭教育支援のための事業・学習プログラム開発セミナー」を実施します。

日程：6/15、8/9、10、10/21

会場：長岡市立劇場

(担当：県立生涯学習推進センター)

別表1

平成17年度家庭教育支援総合推進事業取組先(予定)

	所在市町村	取組団体名
1	新潟市	キッズプロジェクト協議会
2	新潟市(旧新潟市)	特定非営利法人ヒューマン・エイド22
3	小千谷市	青少年育成小千谷市民会議
4	十日町市	十日町市家庭教育支援推進協議会
5	村上市	家庭教育運営委員会(村上市)
6	燕市	燕市家庭教育推進協議会(仮称)
7	栃尾市	栃尾市地域家庭教育推進協議会
8	糸魚川市	糸魚川市地域家庭教育推進協議会
9	五泉市	五泉市地域家庭教育推進協議会
10	新潟市(旧白根市)	白根子ども体験活動支援センター協議会
11	上越市	上越市家庭教育推進協議会
12	阿賀野市	阿賀野市PTA連絡協議会
13	佐渡市	佐渡市地域家庭教育推進協議会
14	南魚沼市	南魚沼市家庭教育推進協議会
15	村松町	村松町地域家庭教育推進協議会
16	新潟市(旧中之口村)	中之口地区青少年育成協議会
17	長岡市(旧中之島町)	長岡市中学校PTA連絡協議会中之島ブロック
18	寺泊町	青少年育成寺泊町民会議
19	塩沢町	塩沢町家庭教育推進協議会
20	粟島浦村	粟島浦小・中学校PTA

※名称は計画時のもの

② 家庭教育・子育てに関する相談体制の整備

家庭教育子育て電話相談「すこやかコール」を県立生涯学習推進センターに設置しています。

○電話相談 (025) 283-1150

月～金 午後1時～9時

○FAX相談 (025) 284-6019

月～金 午後9時～翌日午後1時

③ その他

様々な媒体を通じて「運動」の広報を行い、会議や研修会で市町村教育委員会等へ協力を要請します。

4. おわりに

先にチラシなどで募集した「運動」のキャッチフレーズにはたくさんの応募をいただきました。また「自分たちもこういう活動をしている」という反響もいただき、趣旨に賛同された方が多くいることがわかりました。

この「運動」が地域に根ざしたのものとなるためにも、行政や各団体が連携して取り組むことが大切です。特に、学習活動の中核的拠点である公民館の取り組みが大きなカギとなります。

「子どもの成長と自立を社会全体で支えていきましょう！」

別表2

平成17年度地域子ども教室推進事業取組先(予定)

	所在市町村	取組実行委員会名
1	粟島浦村	粟島地域子ども教室実行委員会
2	村上市	村上市子ども教室実行委員会
3	柏崎市	柏崎市放課後クラブ実行委員会
4	魚沼市	うおぬまわくわくクラブ(旧ゆのたにのびのび教室実行委員会)
5	村松町	村松町地域子ども教室推進実行委員会
6	佐渡市	後山ふれあいの実行委員会
7	燕市	燕市子どもの居場所づくり実行委員会
8	五泉市	五泉市地域子ども教室推進事業実行委員会
9	聖籠町	せいろう子ども居場所づくり実行委員会
10	荒川町	荒川町地域子ども教室実行委員会
11	妙高市	いきいき子ども教室実行委員会
12	南魚沼市	みずなし子ども自然教室実行委員会
13	津南町	なじよもん寺子屋実行委員会
14	山北町	山北町青少年健全育成会議

※名称は計画時のもの

特集

「社会全体で はぐくむ運動」

新潟県地域家庭教育推進協議会事務局 (新潟県教育庁生涯学習推進課)

1. はじめに

子どもは、基本的な生活習慣や、善悪の判断、豊かな情操、他人への思いやりなどを家庭で学び、学校や地域の人たちとのふれあいや活動を通して、生きる力を身に付けていきます。

しかし、近年、24時間社会、IT社会、国際化社会、少子高齢化など、子どもや家庭をとりまく環境が変化してきています。その中で、新潟県生涯学習審議会の提言を受け、平成16年10月に社会教育関係団体等を中心に「新潟県地域家庭教育推進協議会」(以下「県協議会」)が設立され、県協議会が主体となり「社会全体で子どもをはぐくむ運動」(以下「運動」)を進めることとなりました。

「運動」の経緯や趣旨については公民館月報2004年11月号で特集しましたので、具体的な取り組みについてご紹介します。

2. 平成16年度の取り組み

県協議会では、組織的・計画的に「運動」を推進するため平成17年3月「推進プラン」を策定、広報リーフレット、チラシを作成し、市町村教育委員会、小・中・特殊教育諸学校、幼稚園、保育所、社会教育関係団体等へ配布しました。

推進プランの内容は新潟県教育庁生涯学習推進課のホームページに掲載してあります。

(<http://www.pref.niigata.jp/kyoiku/syogaigakushu/syogaku/>)

家庭教育出前講座は、企業や小学校PTAなどで幼児、児童を持つ親を対象に上・中・下越・佐渡地域で実施しました。「子どもとのかかわりを見直すきっかけとなった」「一緒に何かをやる時間を共有することが大切だと思った」という感想等が得られ、参加者の家庭教育に対する意識向上が図られました。

3. 平成17年度の取り組み

(1) 県協議会の取り組み

県教育委員会と連携して事業を実施します。

① 家庭教育サポーター養成研修

家庭教育に関わる相談に対応でき、家庭教育支援ができる人材を育成します。

日程：全7回

(9/7、30、10/14、25、11/17、30、12/15)

場所：上越市民プラザ

② 家庭教育サポーターステップアップ研修

地域の家庭教育支援リーダーの資質向上を図り、「運動」の中核的人材を養成します。

日程：全5回(10/5、6、11/8、24、12/7)

場所：県立生涯学習推進センター

(担当：県立生涯学習推進センター)

③ 父親の家庭教育を考える集い

地域	日程	会場
上越地域	10月1日2日	国立妙高少年自然の家
中越地域	秋・魚沼市で1回開催	
下越地域	10月以降2回開催	
佐渡地域	10月8日	佐和田中央会館

(担当：各教育事務所社会教育課)

④ その他

協議会、ワーキングチームの開催や各地域への取り組み指導、各地域の事例を紹介する広報紙、事例集を発行します。

(2) 市町村規模の協議会の取り組み

家庭や地域の教育のあり方と重要性について県民意識を高めるために「周知・啓発活動」と、地域での家庭・地域の教育力の向上を図るための学習活動及び実践活動を展開する「地域実践活動」を行います。



家庭教育支援総合推進事業の様子

実践記録

87

シリーズ

「妙高青少年リーダーズ研修会」

～広域連携・高校生の参画～

田上町公民館 主査 諸橋 弘樹

はじめに

田上町公民館では、平成15年度から地域で活躍できる青少年リーダーを養成しようと、夏休み期間を活用し「妙高青少年リーダーズ研修会」を開催しています。これは、国立妙高少年自然の家を会場に、「妙高アドベンチャープログラム」などのグループワークや共同生活を通じ、自立・協力協調・信頼関係づくりに主眼をおいた事業です。平成16年度は、小学生23人、中学生18人の計41人が参加しました。

広域連携事業

この事業の特徴の一つは、広域連携事業としての位置づけです。当時、旧下田村と田上町の2町村に派遣されていた、派遣社会教育主事の樋口先生の働きかけにより、旧下田村中央公民館と合同で開催することができました。合同開催はこれが初めての試みで、事務が複雑になるという欠点もありましたが、準備や運営の負担を分けることができるという利点もありました。最もメリットと感じたことは、異年齢交流に加え、2町村の子ども達が集うことにより、日常生活とは全く異なる環境をつくることができたことです。「普段は自分の意見をあまり言えなかったのに、今回の研修会で意見をはっきりと言える自分がいることに気付いた(参加者の感想)」。非日常的环境の中、新たな自分の一面を発見できた参加者もいました。

ボランティアスタッフの登用

当公民館では、御多分に洩れず中高校生の参加が少ない状況でした。そこで、この事業では中高校生にも参加してもらおうと、小学5年生から高校生までを対象として開催しました。平成15年度は、中学生の参加はあったものの高校生の参加は皆無。そこで、16年度は高校生をスタッフとして登用し、とにかく事業に関わってもらおうという発想から、高校生～概ね20歳の青年を対象に、有償のボランティアスタッフを募集しました。その結果、高校生7人、大学生1人、専門学校生1人の計9人が応募し、スタッフとして事業に参画してもらいました。ボラン

ティアスタッフの役割は、初日の「緊張を解きほぐすゲーム」と最終日の活動(半日)の企画運営、子ども達の生活面での支援、集合や解散の号令、活動用具の準備、ゴミの始末など。つまり、中心的な活動と事務以外はすべてボランティアスタッフの仕事として位置づけました。

そこで、ボランティアスタッフ育成のため、事前研修会を1泊2日の日程で開催。1日目は活動を実際に体験し、2日目は活動の企画や役割分担を決めるというのが主な流れ。私自身、初めて接する年齢層であり、不安も多分にありましたが、事前研修を通じて「自分達が企画運営をする」という意識が生まれ、熱心に、そして楽しい事前研修となり、とても有意義なものとなりました。その後、当初予定はしていなかった企画会議を、ボランティアスタッフの発案で数回にわたり開催。最後まで不安を隠せない様子でしたが、いざ研修会本番を迎えると、見事なリーダーシップを発揮してくれました。

このボランティアスタッフの登用については、事前研修など準備段階ではかなりの労力を使いましたが、研修会当日の指導が行き届き最大の効果が得られたこと、小学生から大学生までという異年齢交流が図られることなど、大きなメリットがありました。そして、公民館としては、なんといっても高校生や大学生が積極的に公民館事業に関わってくれることが本当にうれしく感じました。「私が高校生になったら、ぜひボランティアスタッフとして参加する」という中学生も生まれ、子ども達にも大きな影響を与えたことが実感できました。

まとめ

今回は、広域連携とボランティアスタッフの登用について述べさせていただきましたが、この事業の一番の目的は「妙高アドベンチャープログラム(MA)」にあります。参加者を始めボランティアスタッフにおいても、MAにより多くの気付きがありました。

MAについては、今後「公民館月報」で取り上げられることを期待しつつペンを置きます。

のんびりと活動しています

すくすくサークル

加茂市の公民館で毎週、親子交流の場として活動しているグループです。室内遊びを中心に季節の行事をとりいれながらテーマに沿って、親子で楽しい時間を過ごしています。毎回、おやつタイムもあり、その時に育児のことなど、情報交換をしたりして日々のストレス発散にもつながっています。

会員は子どもが0歳〜3歳児で、まだハイハイも出来ない赤ちゃんもいれば、元気に



走りまわる子どももいます。親は、ママだけではなく、おばあちゃんもいらして、年齢の中がとて広いです。そんなではありませんが、子育てをしている者同士、みんなすぐに友達になり、和気あいあいといった雰囲気です。

加茂市すくすくサークル
代表 馬場 直美 記



伝統文化学社融合

与板町伝統文化こども教室

二年前、与板民謡たちはな会が、小学生を対象に「与板町伝統文化こども教室」が発足し、三味線、太鼓、笛、唄を毎週土曜日に十六名を指導しています。



楽器も持ったことのない小学生でしたが、今は古い伝統をもつ「与板おけさ」「与板囃子」「与板小唄」の弾き唄いが出てくるようになりました。

子ども達の作文の中に、練習は厳しいが、「心の中でこんな曲が弾けたらなー」と思っていたのが、今弾けるのです」と喜びを書いてくれました。

町の皆さんの応援で、各種の行事に出演し、今年七月には、「全国こども民謡芸能大会」に出演が決っており、生涯学習の場として、楽しみながら皆んなで頑張っております。

与板民謡たちはな会

監事 吉田 勝 記

平成17年5月7日にオープンしたばかりの新潟市生涯学習センターに、これまたピカピカの新入生がやってきました。その名は北上みどりさん。「どきどき」と内心を言葉に表しつつ、朗らかにお仕事に励む毎日です。慌ただしい開館準備を終えて息つく暇も無く、これから開館記念事業、小学生向け各種体験教室に、乳児をもつお母さんのための講座など次々デビュー戦が待っています。電

新潟市生涯学習センター事業係
主事 北上みどりさん



話対応の腕前に加え（声質が通常の3割さわやかになると評判です）、その屈託ない笑顔でファンを獲得してゆくこと間違いなしでしょう。

そんな彼女ですが、この秋晴れてご結婚されます。おめでとう！底抜けに明るい家庭をつくってね。どうぞお幸せにー！

(新潟市生涯学習センター 山吹 文子 記)

社会教育課に配属され、4年目となる佐藤さんは、主に高齢者学級と週末子ども体験教室を担当し、幅広い世代から親しまれています。

とりわけ、佐藤さんが企画する子ども創作体験教室はいつも大人気。子ども達や高齢者に新しい体験を提供するため、ホームセンターなどに足を運び、創作研究に取り組んでいます。

また、ときどき職場で口にする妙なダジャレは周囲を明るくし、ときには「シャボン玉サタ

聖籠町教育委員会社会教育課
社会教育主事 佐藤伸一さん



デー」(シャボン玉づくり教室)などと、年代を感じさせる子ども教室のネーミングにも活かされています。

公民館に勤務する以前から、町剣道クラブの指導にも従事するなど、多忙を極める佐藤さん。「たまにはゆっくり休んだら」の声に、「好きなことやってるから全然大変じゃないよ」とのこと。根っからの公民館大好き人間なのです。

(聖籠町教育委員会社会教育課 高松 光志 記)



年度末に、大変分厚い冊子が県の生涯学習推進センターから送付されて参りました。

巻頭に、これまで別冊として情報提供してきた「大学等の公開講座・連携講座、」と市町村との連携事業・連携講座並びに講師情報」を加えて合本とした、と所長は述べておられます。

内容は、1、市町村の事例1、家庭教育、2男女共同参画学習、



II、家庭教育支援総合推進事業(国委託)の事例、III、県男女

平等社会推進課、県女性財団の事例、IV、県立生涯学習推進センターの事例、V、大学等高等教育機関の講師情報等により構成されており、

A4判、151頁プラス講師情報の頁です。

「社会全体で子どもをはぐくむ運動」を全県的に展開している今日、市町村等の事例は、とくに貴重な資料となりそうです。

恵贈資料紹介

学習プログラム事例集

新潟県立生涯学習推進センター

第56 新潟県公民館大会の準備も、新潟市白根地区館を中心、本格的始動ということになります。大会資料原稿作成依頼、大会資料(冊子)の誌面割付構成、第2回実行委員会の開催準備等に入っております。

第46回関東甲信越公民館研究大会開催要項が、主管の神奈川県公民館連合会から届き、県内各市町村公民館宛発送済みです。多数の参加をお待ちしております。

(鈴木 記)

Net work ネットワーク

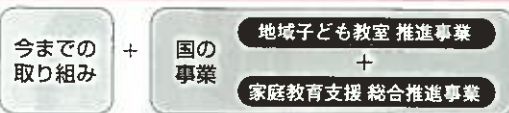
第46回 関東甲信越静公民館研究大会開催要項概要

テーマ 地域社会の創造・再生をめざす公民館の運営
～教育機関として豊かな地域社会を育むために～

- 趣旨 省 略
 - 主催 関東甲信越静公民館連絡協議会
社団法人全国公民館連合会
神奈川県公民館連絡協議会
 - 主管 第46回関東甲信越静公民館研究大会実行委員会
 - 後援 省 略
 - 期日 平成17年8月25日(木)～26日(金)
 - 会場 全体会場 横須賀芸術劇場
分分会场 横須賀市生涯学習センター・横須賀市産業交流プラザ・横須賀市立総合福祉会館・ヴェルクよこすか(横須賀市立勤労福祉会館)
 - 参加者 公民館職員、公民館運営審議会委員、教育委員、社会教育委員、教育委員会事務局職員、社会教育関係施設職員、公民館利用者、社会教育関係団体関係者、その他本研究大会への参加希望者
- | | | | | |
|----------------------|------------------------------|---------------------------|-----------------------|---|
| 第1日目
8月25日
(木) | 12:20～13:20
分分会场打合せ | 13:30～16:30
分分会场 | 17:30～19:30
情報交換会 | ①分分会场は分分会场ごとに1時間30分より。
②分分会场打合せは会場ごとに行う。 |
| 第2日目
8月26日
(金) | 9:20～10:50
分分会场担当者による「懇談」 | 11:00～11:45
全体会式典及び表彰式 | 11:45～12:00
引継ぎ、解散 | ①受付は9時から。
②開会は9時15分より。 |
- 分科会構成と担当県(省 略)
 - 鼎 談 (前日の分科会を受けて担当者による補談)
補談主題 地域社会の創造・再生をめざす公民館の運営
～教育機関として豊かな地域社会を育むために～
補談者 大正大学教授細田道春(神奈川県・横須賀市・鎌倉市・大和市社会教育委員)、帝京大学助教授佐藤昭彦(横浜市社会教育委員)、東京大学助教授鈴木真理
 - 参加申込総括表、参加費送付先
①参加負担金 3,500円(資料代、大会記録集代ほか)
②参加希望者は、別紙申込書に必要事項記入の上、参加負担金3,500円を添えて所管の公民館(区市町村)を通じて、各都県公民館連合会・連絡協議会事務局へ6月24日(金曜日)までに申し込んでください。
③各都県公民館連合会事務局は「申込総括表」(別紙)により参加者名簿をまとめ、6月30日(木曜日)迄に神奈川県公民館連絡協議会「第46回関東甲信越静公民館研究大会」へ申し込んでください。なお、併せて期限内に参加負担金を指定の口座にお振り込みください。
【参加申込総括表送付先】
〒231-8509 横須賀市中区日本大通33
神奈川県教育委員会教育局生涯学習文化財課内
神奈川県公民館連絡協議会「第46回関東甲信越静公民館研究大会」係
【参加費の振込み先】
銀行名 横浜銀行野村支店
口座番号 1212792
受取人 第46回関東甲信越静公民館研究大会事務局 中山耕造
*振込先電話番号 045-210-8317(大会事務局)
④期限以降の申込は原因として受け付けません。
⑤参加取消しについては、参加負担金は返還いたしません。その場合には、研究大会資料及び研究大会記録集を各都県公民館連合会事務局に送付します。

event information

社会全体で子どもをはぐくむ運動



社会全体で子どもをはぐくむ運動

子どもが心豊かに成長し、社会人として自立していくために必要な資質や態度の育成

このような取り組みをとおして、すべての子どもたちが、すべての大人に温かく支えられていること、子どもも地域の一員であり地域づくりの担い手であることなどの実感もてる運動を目指します。

